今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇12月4日～

先週は米国の利上げが終了したという思惑が広がり、米国の長期金利も下がりつつあることで米国株が強い動きとなりました。
FRBのパウエル議長が１日、「十分に景気抑制的なスタンスを達成した」と発言したことも利上げ終了の思惑を強めました。
ただし、追加の金融引き締めが適切になる場合は、そうする用意があるとも言っており、慎重な姿勢は維持しています。
FRBはまだ利下げについては何も言ってませんがマーケットは来年夏くらいから利下げに転じるとの見方に傾き始めています。
このことから株価には追い風、為替相場ではドル高の流れに変化が見られます。
ドル／円も 147 円を割り込む動きになりました。
日本も来年の春以降は、何らかの政策変更に転じるという見方が広がりつつあることから日米ともに来年は今年とは政策面で違った動きになるという予想が大半です。
また、欧州もインフレの勢いが弱まってきているためインフレ抑制のための利上げはそろそろ終了となるかもしれません。
昨年から急ピッチで進んできた利上げの動きに変化が出てくれば、マーケットの流れに変化が出てくる可能性があります。来年は今年とは全く違う動きになることも想定しておきたいです。
米国の長期金利も4．2％程度まで下げてきており、一時は5％を超えてどこまで上昇するか心配の声もありましたが 9 月頃の水準まで戻しています。
ドル／円の動きは日米の金利差で動くことが多いため、米国の金利動向は今後もしっかりと追いかけていきたいです。
今週は、週末には米国の雇用統計もあり、12 月前半は株価が急落するなど波乱が起こることもよくあるため為替相場以外に株や原油、金価格などの動きもあわせて見ておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

11 月中旬まで続いた強い動きが終わり、11 月後半は円高が進みました。
久しぶりの 146 円台まで下がってマーケットは終わっています。
下値は146．6円を割り込むと 145 円あたりまで下がるリスクがあります。
週足でも陰線となっており、流れ的には円高がおさまったと判断するのは危険です。

Copyright©（有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

12 月は前半から中旬にかけて急落するような動きが出る事も多く、週明けからの動きには注意がいります。
上値は、148．3－148．5円あたりに抵抗があり、ここを超えることができなければ下値トライの動きになる可能性もありそうです。
148.5 円を超えると 149 円台後半が次の抵抗として意識されます。
昨年は 10 月中旬の 151 円台をピークに年明けにかけて大きく円高が進行したので、今年も 11 月中旬の 151 円台をピークに年末にかけて円高が進行する動きが出るかどうか警戒したいです。

＜気になるクロス円＞

クロス円は動きがバラバラです。
ユーロは大きく下げています。週足でも大きな陰線で終わっています。159 円台で踏みとどまって、再度上昇するかどうか見極めてからのトレードでもよさそうです。
オセアニア通貨は比較的強い動きとなっています。高値圏での動きがしばらく続く可能性もありそうです。
カナダドルは秋以降、レンジ相場のような動きなので、タイミングを見ながら売買したいです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では11月東京都区部消費者物価指数、7－9月期GDP（改定値）などがあります。
米国では10月製造業新規受注、11月サービス部門・総合PMI（改定値）、10月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、11月ISM非製造業景況指数、11月ADP雇用統計、10月貿易収支、前週分新規失業保険申請件数、11月雇用統計、12月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで11月サービス業PMI（改定値）、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、10月卸売物価指数、10月小売売上高、7－9月期GDP（確定値）、ドイツで10月製造業新規受注、10月鉱工業生産、11月消費者物価指数（改定値）などがあります。
ほかにはオーストラリアとカナダで政策金利の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved